



～若き心 集まるところ～

No.7

全ての台中生の『心の笑顔』と『成長』のために

「子どもを守る」ということ・・・



今回は趣向を変え、最近思うことを書き記したいと思います。

学校には、全ての生徒の安全と学びの機会を保障する義務があります。そのゴールは端的に言うと「全ての生徒が幸せに生きていくこと」に尽きます。

中学生の時期は発達過程の段階にあるからこそ、学校では様々なトラブルや課題が生じます。学校が考えるゴールに向けて、学校としてできることは精一杯やりますが、私たちが関われるのは3年間だけです。生徒たちに正しい判断力や公共心がつき、地域社会の一員として、法に則り周囲と適切に関わりながら生活していく力は学校教育だけではつきません。当然、最も大きい影響があるのは保護者の考えや子育ての姿勢です。そのため、生徒の“現地点”を共有し、お互いのできることを考えていくため、学校で起きたことは、必要に応じてご家庭にお伝えしています。学校が「全ての」生徒の安全と学びの機会を保障する義務がある一方、保護者の皆様も、「全ての」ではなく「我が子」を優先するのは自然なことです。しかし、その「違い」により、生徒への適切な支援に繋がらないケースがあります。お互いがその「違い」を理解しないことは、学校と家庭が連携しながら一人一人を成長させていくことへの大きな弊害となります。些細な変化や出来事であっても“現地点”を共有することは大切です。学校から連絡があった時、「うちの子に限って…」「そのくらいのことで…」「何か他に原因が…」と何かのせいにし、その事実に向き合うことを避けたことはありませんか？

13～15歳で人格が完成している生徒はいません。多かれ少なかれ様々な失敗を繰り返しながら一歩ずつ成長していく時期です。時には暴力行為や違法行為として表出することも少なくありません。家庭・学校・地域の大人がその失敗を成長に繋げていけるよう連携していくことが大切だからこそ、学校は、家庭だけでなく、状況に応じて行政や警察など、様々な関係機関との連携に努めています。しかし、生徒の成長を支えていくそれらの大人の都合やプライドで、その事実に向き合わず、責任を他者に押し付けることは、生徒の失敗を覆い隠し、一見「守ってやっている」ように見えますが、それは「守っている」のではなく、さらに苦しめてしまうこととなります。逆を言えば、成長過程にある生徒がどんな失敗をしても、周囲の大人がそれを受け止め、向き合い、寄り添い、一緒に悩み苦しんであげる姿勢があれば、必ず大きな成長に繋がると私は信じています。

3年目となった地域防災～今年度は「公助」をテーマに～

9月11日(木)、「地域と共同して行う防災学習会」を実施しました。一昨年度から3年間にわたり、防災の3つのキーワードである、「自助・共助・公助」をテーマとした学習会とし、今年度は、市防災対策課の職員と円蔵地区消防団の方々を講師として招き、「公助」について学びました。いつ起こるかわからない災害に備えるためには、生徒たちも地域の一員としての自覚をもつことが大切であることから、今年度も、各自治会の防災担当の皆様にもご参加いただき、講演会後は、地区ごとに生徒との地域の方々との顔合わせをしました。

学校の避難訓練は生徒が学校にいる平日の昼間に行います。しかし、地震や津波、火災等、災害は曜日にも時間に関係なく、突然襲いかかってきます。その瞬間、自分や家族がどこにいるかはわかりません。だからこそ、お互いの命を守り抜くため、避難訓練や今回の学習会での生徒の学びを、家庭でも共有し、時々話題にしながら、防災意識を高めていくことが必要です。講演前の学校長の話で生徒に伝えた内容を載せますので、改めて各ご家庭での防災対策について考える機会にしてほしいと思います。

この「地域と共同して行う防災学習会」は今年度で3回目となります。一昨年度は、まずは自分や家族を守るための「自助」を、昨年度は、地域や近隣住民が協力し助け合うための「共助」をテーマに学習してきました。今回は、国や地方公共団体、消防、警察などの公的な支援である「公助」について学びます。災害は想定をはるかに超える規模でやってきます。だからこそ、正しい知識による日頃の備えや訓練が大切です。

また、おそらくまだ、皆さんの多くが実際に経験していないであろう大災害に直面した際、自分と周囲の人たちの命を守り、安全に乗り切ることは簡単なことではありません。だからこそ、自分一人ではなく、家族や地域の人たちと、「どうすればいいのか」を共有しなければいけません。そのため、市役所の職員の方や地域の方々とともに学ぶ、今日の学習はとても大切です。一日の学習だけで、あらゆる災害に対応できる防災力は身につきませんが、今日をきっかけに、大災害への危機感や防災への意識をさらに高めていけることを期待しています。

2025年度後期・2026年度前期生徒会本部役員選挙が行われました

9月25日(水)に生徒会本部役員選挙・立会演説会が行われました。19日からの選挙運動期間では、毎朝正門で立候補者と応援する生徒たちが大きな声で登校する生徒にアピールしていました。立会演説会では、各立候補者と応援弁士が全校生徒の前で堂々と演説をし、「台中をこんな学校にしたい」という強い気持ちを訴える姿が印象的でした。何よりも全員が思いをもって立候補したことに大きな価値があります。そして当選者は、今後、『公約』実現のために精一杯の努力をすることが大切です。

現生徒会本部役員は、挨拶キャンペーンをはじめとする様々な取組により素敵な学校づくりのため活躍してくれました。そして後期からの新しい本部役員のメンバーだからこそできる取組を大いに期待しています。立会演説会の前に、私から次のような話をしました。

この経験を通して、全ての台中生が将来、社会の大切な一員として国政や市政などに関心を持ち、大人として選挙に行くのは当たり前であると考えられるようになることを願っています。



日本で選挙制度は明治時代に始まりましたが、最初の選挙権は25歳以上の男性で、一定の納税額を納めた者とされ、有権者はごくわずかでした。その後、大正時代に入り「男子普通選挙」が実現、第二次世界大戦後の1945年になってやっと女性の参政権が認められました。そして、2016年になり、選挙権年齢が18歳に引き下げられました。これがどういう意味が分かりますか？

お金持ちしか選挙権が与えられなかった時代に選ばれた人たちは、お金持ちのための政策を進めます。男性しか選挙権がなければ、男性に都合のいい政策を進める人が選ばれます。そんな不公平な時代を経て得た権利にもかかわらず、投票率は高くなりません。以前は投票したくてもできなかった人が多かったのに、今は投票できるのにしない人が増えているという状況です。そのような状況では、国や自治体をはじめとしたさまざまな組織は一部の人の意見だけで動いてしまいます。数年後には選挙権が与えられる皆さんには、まずは、毎日生活する鶴が台中をよりよくしたい、過ごしやすい学校にしたいという思いの実現のため、立候補者の考えに関心を持ち、真剣に考え、投票してください。台中のためと思って勇気をもって立候補してくれた候補者の皆さんと、応援したいという気持ちで応援弁士を引き受けてくれた皆さんの「想い」に感謝します。ありがとう。真剣な相手の言葉を、誠実に、真剣に受け止める「カッコいい姿」を見せてくれるはずの皆さんにも感謝します。

最後になりますが、立候補者は1年生が定数3名に対して5名、2年生は定数4名に対して4名。2年生は信任投票となりますが、1年生は選挙で、当選する人とならない人が分かります。しかし、大切なのは、ここにいる9名の立候補者が全員、「台中をよりよくしたい」という思いを持っているという事実です。この後の演説では、一人一人に対して拍手があると思いますが、まずは、立候補してくれた全員の「想い・気持ち」に、大きな拍手を送ってください。立会演説会の後の投票では、無効票や白票がゼロで、ここにいる全員が鶴が台中学校生徒会の「当事者」として、より素晴らしい台中を作っていこうとする気持ちが強くなることを期待しています。

そうだ、教室へ行こう！



授業の様子・先生方のこだわりなどを発信します！

授業の様子の写真が入ります。



今回は7組の家庭科の授業です。これまでやってきた「ひらおり」の集大成として、それぞれの作品を木の枝につけて壁掛けを作る授業でした。生徒たちは、表現したいことをイメージして糸の太さや色などを選び、個性あふれる作品が続々と仕上がり、作業しながらの素敵な「自己表現」の活動のようでした。

先生の授業へのこだわりは・・・？『家庭科では、自分とまわりの人の生活が豊かで楽しいと思える方法を、様々な視点で考えます。糸は1本だけでは何かを縛るくらいしかできませんが、縦と横に折り重なると布になります。学んだ知識や技術を用いて、生徒がよりよい毎日を過ごせればと思っています。』

教頭先生のつぶやき・・・

先日、本校で地区の中学校の校長先生方が集まる大切な会議がありました。休み時間に廊下や階段を移動する生徒の会話が会議の場に響いてしまったため、すぐに掲示等で注意喚起をしたところ、それ以降静かに移動している姿がありましたが、その裏では、状況を察し、廊下や階段付近にさっと適所に数名の先生が立ち、生徒に言葉をかけたり、すれ違う生徒同士が「シー」と指でサインをしたり、「会議やってるよ」と言葉をかけたりする姿が見られました。周りを見て状況判断し、行動に移すことができる先生や生徒の姿に改めて素敵な学校だなととても感心しました。